

## 共同生活援助事業所連絡会 会議録概要

名 称	令和7年度 第1回 共同生活援助事業所連絡会
日 時	令和7年7月29日(火) 13時00分～14時30分
場 所	あいとピア3階 研修室
出 席 者	グループホームイノベル岩屋(小松)、来夢の家(水野)、明日香ホーム(井上)、SMILE LINK KURA(赤根)、グループホームほのか(荻野)、ケアホームふたば(北尾)、東脇グループホーム(小池)、スマイルの家(山本)、岩崎障害者地域生活ホーム(留森)、ソーシャルインクルー株式会社(渋谷)、ソーシャルインクルーホーム豊橋鍵田町(畠山)、あさひの家(加藤)、リーフス(安形)、ステップ豊橋(栗田)、なごみホーム(大瀬)、グループホームあいわ(宮本)、わをんアットホーム牟呂(大矢)、グループホームイノベル下地(川崎)、すみれホーム(工藤)、グループホーム昭和の里サンライズ(古田)、あかね荘(朝倉)、クライスハイム豊橋事業所(高川)、昂の家(太田)、ひこうき雲(海村)、メゾン・ドゥ・ラック(加藤)、双樹会 希望の杜(森)、NOIE TOYOHASHI(鷺見)、ラブア豊橋舟原町(渕)、アペックスハイム IWATA(佐藤)、特定非営利活動法人 昂(野口)、みらいの家(近藤)、さざなみいこいの家(山崎)、さざなみ(遠山)、木もれ陽事(阿部)、FLAT(間瀬)、アイリス(川端)、豊橋市役所障害福祉課(野々村・渡曾)、とよはし総合相談支援センター(浅井・鈴木佐) 合計… 40名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和7年度共同生活援助事業所連絡会代表・副代表挨拶</li> <li>2. 令和7年度豊橋市障害者自立支援協議会の体制、スケジュール ハザードマップについて 大規模災害時の支援体制検討会より</li> <li>3. 地域連携推進会議について すでに実施された事業所より報告・質疑応答</li> <li>4. グループワーク 入居者の重度化・高齢化(嚙下の低下・ADLの低下) 強度行動障害の方への対応 地域移行等でGHが生活の場となった方に対して、GHとして機能しているかな?困っている事、皆さんの意見を聞きたい等 特にテーマは定めません。意見交換、情報共有の場にしてください。 意見の共有 その他</li> </ol>
今回の課題	<p><b>1 令和7年度共同生活援助事業所連絡会代表・副代表挨拶</b> 会長グループホームスマイルの家山本氏、副会長グループホームさざなみ山崎氏。</p> <p><b>2 令和7年度豊橋市障害者自立支援協議会の体制、スケジュールについて</b> (障害福祉課 野々村氏より説明) ハザードマップについて (河川課より説明) 大規模災害時の支援体制検討会より (ほっとぴあ 間木氏より説明)</p>

### 3 地域連携推進会議について

(障害福祉課 野々村氏より説明)

#### すでに実施された事業所より報告・質疑応答

(昴の家 野口氏より)

今年度から義務になった。GW明けから声を掛けることから始めた。実際参加していただいたのは地域の民生委員、ユアケミスト施設長磯田氏、ホームの利用者、家族の立場で昴の職員、相談員さざなみ杉本氏、管理者、サビ管、職員の8名。二川南小学校の校長は急用で不参加。

自己紹介をしてからからGH見学。来ていただいた午前10時は普段利用者が活動していない時間なので、実際の活動の様子の写真をスライドで流した。そのあとパンフレット、重要事項説明書で家賃などを説明した。

地域の民生委員からは平均年齢、高齢化したら2階に上がるときどうするか、地域活動はどのようなことをしているか。家族からは実際にGHに入るための準備はどんなことが必要かという質問があった。サビ管から個別支援計画で地域の散歩や、室内の活動でも運動を取り入れるなどの話をした。地域の民生委員からはここがGHとは知らなかった、地域の祭りなどいろいろあるのでこれから声を掛けると言っていた。これをきっかけに地域の活動に参加できていけるとよい。

(あかねホーム 朝倉氏より)

珠藻荘・あかね荘の入所施設とGHの3施設合同の会議。構成員は校区自治会長、野依校区長、豊橋市の関係者2名、珠藻荘の利用者・家族会長・管理者・サビ管・責任者、あかね荘の利用者・家族会長・管理者・サビ管・生活支援員、相談員2名の合計16名。

自己紹介のあと施設概要説明。それぞれパワーポイントを使って説明。さわらび会の地域貢献事業として夏休み親子福祉体験、文化祭、子ども食堂オレンジカフェ等の説明をした。

意見交換をして、地域住民からは、職員の努力や利用者の楽しみが伝わる施設紹介だった。利用者が働くパンの製造販売にも出向いた。今後もモノづくりの活動を継続してほしい。地域で10月にいきいきフェスタを開催予定。珠藻荘に通知をするので参加してほしい。福祉村は高齢者の施設のイメージがあったが、今回の紹介で障害者の施設もあるということで理解が深まった。行政関係者からの意見としては、入所施設は閉鎖的になりがち。地域とのつながりが重要だと感じた。地域での買い物など日常的に外出を通じて地域理解を深められるとよい。自治会を利用して利用者のやりたいことを実現してほしい。利用者一人ひとりの声をしっかり聞いて努力されていると感じた。利用者からは、コロナ禍で地域との関わりや外出が制限されていたという実感がある。一部の利用者は買い物などの外出を始めている。みんなで行けるようになると嬉しい。家族会の意見としては、勉強になる内容だった。地域の皆様にとっては建物があるのは知っているが施設のことが十分に伝わっていないことが分かった。

質疑応答として、職員の研修はどのように実施しているか。法人の職階級別研修を実施している。法人の研修委員会にて研修計画を実施している。外部研修への参加も積極的に行っている。地域貢献活動の課題としては、子ども食堂などがまだ十分に周知されていない。地域の大学との連携の中で地域への広報を進めてきた。会議予定を1か月前に知らせただけだとありがたい。家族からの要望としては地域の方に施設のことが分かるようアピール方法を検討してほしい。

各施設の見学は14時から16時までだった。

## 【質問】

- ・地域連携推進会議については、議事録の作成と公表が必要であると手引きには記されているが、それは義務なのか。
- ➡会議の開催自体は義務化されているので、議事録の公表とセットだと考えていただければよい。
- ・公表の方法についてはホームページの掲載でも施設内の掲示でもよいのか。
- ➡特に場所や手段は記されていないので、公表できる形でやっていただければよい。

## 4 グループワーク

入居者の重度化・高齢化（嚥下の低下・ADLの低下）

強度行動障害の方への対応

地域移行等でGHが生活の場となった方に対して、GHとして機能しているかな？困っている事、皆さんの意見を聞きたい等

特にテーマは定めません。意見交換、情報共有の場にしてください。

## 【意見の共有】

## (1 グループ)

- ・支援を持て余している利用者がいる。その方にGHでできることはないか。その人の思いは何かをまず探ってみないといけない。その方にとって関わりの手を増やしていったらどうか。いま組み立てている支援を一度見直してみる。
- ・自立されている方が、訪問するときバリケードを立てて訪問を嫌がる。介入の仕方が難しい。
- ・強度行動障害が付いている方はなぜ付いたのだろうか、どういう経緯だったのかが見えない。

## (2 グループ)

- ・地域連携推進会議はどのようにやっていけばいいのか。食事は自分たちが作っているのか、利用者が作っているのか。電気代や食事代が高くないか、どこかの業者が安いのか。強度行動障害のある方について、何とか対応できるといった方に身体介護が付いたらどうなのか。

## (3 グループ)

- ・入所者の高齢化の問題について共有できた。福祉事業者の名簿で名前だけ拝見している事業者と交流できて良かった。

## (4 グループ)

- ・強度行動障害の方を受け入れられるかについて、世話人が1人しかいなくて難しい。1名受け入れしている。
- ・地域活動の進め方について、7名の利用者のうち2名が地域の老人会に加入している。町内会に加盟しており、草取りなどに参加している。
- ・利用者が支援されるのが当たり前になっているのではないか。わがままになっている方もいるのではないか。そういう方に対してどんなアプローチをすればよいか。居心地の良い環境づくりをするためにどうするか。相談支援専門員から、個々の個別支援計画の目標に

対してGHの世話人がどのような支援ができるのか。

- ・一人暮らしを望む利用者に対してどのような支援をしていけばよいか。

(5グループ)

- ・刑務所を出た方の受け入れについて、犯罪者の方を受けている所があった。ゴールはないが受け入れ方が難しい。ロードマップがない。刑務所の方は障害福祉サービスの事業者のことをある程度は知っているが、豊橋の社会資源についてはほとんど知らない。
- ・職員がなかなか見つからない。職員が病んで辞めてしまう。
- ・高齢になってきた方が何歳まで障害福祉サービスでやるのか。

(6グループ)

- ・事業所に訪問に来てほしい。モニタリングに来てほしい。事業所によって特徴が違うというところを相談員は分かっているのか。
- ・高齢化について、利用者が年を取ると親も年を取る。いつまで居られるのか。
- ・個別支援について、今落ち着いている方に対しての目標の立て方について、ハードルを上げてしまうと生活の場としてどうなのか。

(7グループ)

- ・高齢の方の受け入れについて、障害福祉サービスで受け入れるのか介護保険を使っていくのか。医療的ケアなどを考えるとつなぎの部分であれば受け入れは可能。
- ・人員配置について、夜間帯、宿直で配置していくのか時差で配置していくのか。
- ・日中の通院はホームでどこまで対応していくのか。相談員が通院に行かなければいけないのか。他事業所を使って行くのか。
- ・買い物について、利用者の買い物にどこまでスタッフが一緒に行くのか。自分で行ける方は自分で行っていただく中でも家族から要望があったりする。
- ・自立支援について、どこまで支援していくのが適切なのか。
- ・公用車について、アルコールチェックをしているか。

(8グループ)

- ・強度行動障害の方の支援方法について。
- ・地域移行について、入所施設や精神科病院から地域に移行してきて、自分でお金を稼いでお金を使うようになり、お金を使いすぎてしまったという新たな問題も発生してくるが、そうやって地域で生活していけるような事例を共有した。
- ・精神科病院から地域移行したときに、何十年と入院したはずなのに引継ぎが1枚のサマリーだけで終わってしまうこともある。もう少し連携で病院からの情報の引継ぎはできないか。
- ・夜勤が急に無断退職してしまったらどうするか。